

2	一宮	宮西小学校	ノヤマ ユウコ
			氏名 野々山 佑子

分科会番号	10	分科会名	家庭科教育
-------	----	------	-------

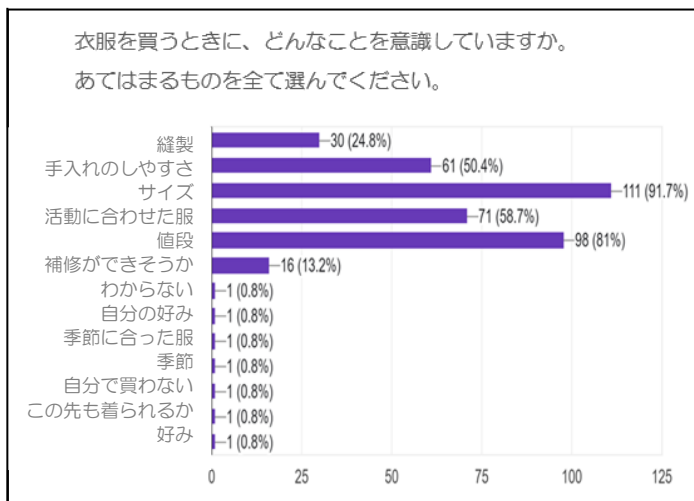
豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育

—6年「イチから始める衣生活 アイテムゲットで 目指せ!スーパーコーディネーター」の実践を通して—

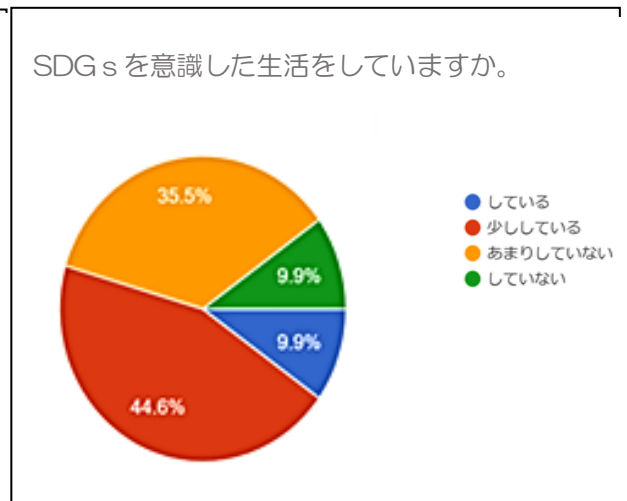
1 はじめに

地球温暖化が進み、異常な気温上昇により、屋外での活動を制限されるなど、児童もその影響を実感するようになった。温暖化に伴い、快適な生活を送る上で衣服が担う役割は大きくなっており、さまざまな機能を備えた衣服が開発され、選択肢はどんどん広がっている。さらに、家庭から手放される衣服の68%は可燃・不燃ごみとして出され、年間約48万トンが焼却・埋め立て処分されている。こうした事実をもとに、児童が自分の衣生活が環境に与える影響について考え、着用や処分の方法を見直すことは重要である。また、購入後の生活だけでなく、購入する際、サステイナブルな視点をもって選択することはさらに重要である。

6年生(121名)の児童に、衣服に関するアンケートを行ったところ、「衣服を買うとき、どんなことに気を付けていますか」という質問に対して、「サイズ」と答えた児童が全体の91.7%、「値段」と答えた児童が全体の87%だった【資料1】。6年生の児童にとっては、衣服はサイズや値段など目に見える情報の中だけで選択することが多く、衣服の作られる過程や処理方法、素材、環境に与える影響など、見えにくい部分には意識が向いていないことが分かる。また、普段の児童の様子から、友達と同じような服装をしていることに安心し、衣服は自分らしさを表現するものとして意識している児童は少ないのではないかと考える。さらに、「SDGsを意識した生活をしていますか」という質問に対しては、「あまりしていない」、「していない」と答えた児童が45.4%と全体の半数ほどいた【資料2】。衣服が環境に与える影響を意識していない児童が多いことが分かる。そこで、SDGsの「5 ジェンダー平等を実現しよう」、「12 つくる責任 つかう責任」、「14 海の豊かさを守ろう」を関連させ、衣服の役割や機能だけでなく、購入、着用、手入れ、処分といった衣服に関わる一連の過程も含めた幅広い観点で衣生活を捉えさせたいと考えた。



【資料1】



【資料2】

本題材を通して、持続可能な社会の構築の視点をもたせ、快適な衣服の着方や手入れの仕方を身に付けさせたり、自らの衣生活の課題を見つけ追究させたりしたい。また、今回学んだ知識や技能を自分の生活に生かそうとする実践的な態度を養っていききたい。

そこで、指導に当たっては、普段の自分の衣生活を振り返らせる際、家族と一緒に話し合う「家族トーク」の時間を設ける。その結果をテキストマイニングに表し、他の児童の意見との比較をさせたり、自らの課題に気付かせたりしたい。また、一宮市は令和4年度より中学校の制服を変更した。さまざまなタイプの制服が選択できるため、児童にとって身近な制服を使ったコーディネートを考えさせ、自分の生活に合わせたり、自分を表現する手段として制服を捉えさせたりしたい。さらに、衣生活を送る上で意識すべき5つの観点（自分らしさ、手入れ、機能性、着心地、環境）をアイテムという形で設定し、課題（アイテム）に迫る時間を1時間ずつ設ける。それぞれのアイテムについてじっくり考えていく中で、各アイテムを普段の自分の生活にどう取り入れられるのか考えさせたい。アイテムをゲットした後は、学習したことを生かし、目的に合わせたコーディネートを班で考えさせる。題材の終わりには、レーダーチャートを用いて、5つの観点をどう意識して生活しているかをまとめさせる。題材の初めに描いたレーダーチャートとの比較をさせることで自らの意識の変化に気付かせ、課題解決学習を評価・改善できるようにさせたい。これらの活動を通して、自らの衣生活を振り返りながら、環境に配慮して主体的に生活を工夫し、実践しようとする児童を育てたいと考え、本研究に取り組むことにした。

2 研究のねらいと方法

<目指す子ども像>

よりよい生活を創り、未来をともに生き抜く子供の育成

<p>関心をもって自分の生活を見つめ、課題をもととする子</p>	<p>自ら考えたり工夫したりして、課題を解決しようとする子</p>	<p>学んだことを生活に生かし、よりよい家庭生活を創ろうとする子</p>
----------------------------------	-----------------------------------	--------------------------------------

<研究の仮説>

<p>① 普段の衣生活を見つめ直し、環境や生活上の問題点に気付かせる手だてを工夫すれば、一人一人に課題をもたせることができるだろう。</p>	<p>② 課題解決に向けて他者と協働し、主体的に取り組んだり、振り返って改善したりする活動を繰り返していけば、生活をよりよくしようと工夫し、実践する態度が身に付くだろう。</p>	<p>③ 「持続可能な社会」の視点から解決方法を考えられるよう手だてを工夫すれば、実践を評価・改善し、解決する力が育つだろう。</p>
--	---	---

<研究の手だて>

- ① 衣服を購入する際に気を付けていることを「家族トーク」や「クラストーク」で話し合うことを通して、家庭生活を見つめさせ、大切にしたい事柄をテキストマイニングで表し、衣生活に対する意識を可視化させる。また、新旧の中学校の制服を着比べさせ、課題点をもたせる。
- ② 衣生活を送るために意識すべき5つの観点をもって、課題を解決するために、さまざまな実験やジャムボードを使った制服のコーディネート、ゲストティーチャーの授業を通して、生活リテラシーを身に付けさせる。
- ③ SDGsの視点と既習のアイテムを踏まえて、場面に合ったコーディネートを考えさせる。その根拠をレーダーチャートで示させ、対話を行うことで、課題解決学習の評価・改善につなげ、これからの実生活に生かしていける実践的な態度を養わせる。

3 題材の目標

- (1) 衣服の主な働きが分かり、社会の課題と関わらせながら、季節の変化や状況に応じた日常着の快適な着方、手入れの必要性やその行い方について理解するとともに、それに係る技能を身に付ける。
(知識及び技能)
- (2) 日常着の快適な着方や手入れの仕方について、問題を見いだして課題を設定し、SDGsの視点をもってさまざまな解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。
(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 家族の一員として、生活をよりよくしようと、日常着の快適な着方について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとする。
(学びに向かう力、人間性等)

4 題材構成 (9時間完了)

区分	時間	主な学習活動
見つめる・つかむ	1	<p>1 新しい制服のひみつを探ろう! 1/9</p> <p>○昔と今の制服のちがいをを見つけよう</p> <p>・自分の衣生活についてレーダーチャートとテキストマイニングを使って可視化し、振り返る。</p> <p>・制服を触る、着る、見る、比べることを通して今の制服に変更された理由を探る。</p> <p>デザイン、着心地、地場産業、手入れ、環境、価格・値段</p> <p>・課題を設定する。</p>
		<p>自分らしさ</p> <p>家族トーク (衣服の選び方調べ)</p> <p>グループ・クラストーク</p>
追究する	1	<p>2 目的に合った着方や手入れについて考えよう 2~7/9</p> <p>○衣服の働きと着方を考える (2/9)</p> <p>・ジャムボードを使った制服コーディネートを通して季節や天気、活動に合わせた着方を話し合う。</p> <p>・生活活動上の働き ・保健衛生上の働き</p> <p>着心地</p>
	1	<p>○布の性質について調べる (3~4/9)</p> <p>・それぞれの布の性質を比べる実験を行う。</p> <p>機能性</p> <p>(触り心地、吸水性、速乾性、吸湿性、通気性、伸縮性など)</p>
	1	<p>・ゲストティーチャーを招き、尾州ウールについて知る。</p> <p>ゲストティーチャー</p>
	1	<p>○衣服の手入れの仕方、手順を調べる (5/9)</p> <p>・取り扱い絵表示から情報を読み取る。</p> <p>・汚れの可視化</p> <p>・環境に配慮した洗濯の仕方</p> <p>・手入れと片付けの順番、必要な用具の確認をする。</p> <p>手入れ</p>
	1	<p>○手洗いで洗濯をする (6/9)</p> <p>・洗剤の量 ・もみ洗いとつまみ洗い ・すすぎ方・干し方</p> <p>・ペットボトル洗濯機を使い、汚れの落ち方を調べる。</p> <p>手洗い実験 ペットボトル洗濯機実験</p>

	1	<p>○衣服の購入時、処理の仕方について話し合う (7/9) 環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衣服を購入(情報をどこから手に入れるか)したり、処理したりする際のポイント(リユース、リサイクル、リメイクなど)について考える。 ・明日からできるサステナブルファッションについて考える。 	<p>家族トーク (衣服の処理の仕方調べ)</p> <p>グループ・クラストーク</p>
生 か す	1	<p>3 学習したことを生かして、ファッションショーを開こう 8~9/9</p> <p>○ファッションショーの計画を立てる (8/9)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネートする場面(修学旅行)を設定し、インターネットを使って、現地の気温やそれに合わせたコーディネートなど情報を収集する。 ・班ごとに衣服を持ちより、目的に合った衣服の着方を考える。 ・それぞれの推しポイントを考え、レーダーチャートにまとめ、発表する。(自分らしさ、着心地、機能性、手入れ、環境) ・自分の課題への取り組みを振り返る。 	<p>グループ・クラストーク</p>
	1	<p>○ファッションショーを開く (9/9)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの班のコーディネートを見て、工夫を見つける。 ・最後に今の自分が衣服を選ぶときに意識していることを、テキストマイニングに表して、初回との違いを可視化し、自分の衣生活を振り返らせる。 	<p>グループ・クラストーク</p>


5 授業実践







【手だて①】

課題を解決する中で、「アイテム」をゲットし、衣生活に対する意識を高めていく取り組み (1~7/9)

題材の初めに、衣服の購入時に意識していることを家庭で話し合わせると、「値段」「デザイン」「サイズ」など、見た目に関わる言葉が多く出た。「綿」や「洗濯しやすい」など、素材や手入れに着目した少数意見も見られた。出た意見を集約し、衣生活を送る上で意識すべき5つのポイント(「自分らしさ」、「着心地」、「機能性」、「手入れ」、「環境」)を設定した。「環境」については意見が出なかったため、新たな視点として教師側から提案した。毎回の授業の中で、この5つのポイントを「アイテム」と位置付け、1つずつを詳しく授業を通して学んでいく中で、「アイテム」をゲットしていく設定とし、児童のさらなる意識付けを行った。手に入れたアイテムを意識し、生かす段階のファッションショーに生かすよう指導した。

【手だて②】既習内容を意識し、ファッションショーの準備をする (8/9)

	児童の学習活動	指導上の留意点(手だて)
つ か む 3 分	1 今までの学習を想起する。 	<p>○衣服の働き、布地の性質、表示、手入れの仕方について復習させる。</p> <p>○学習したSDGsの項目も併せて確認させる。</p>
	2 本時のめあてをつかむ。	<p>5つのアイテムとそれに関連したSDGsの項目も併せて思い出そう。ファッションを考えるヒントにしていこう。</p> <p>○掲示物で衣服の選択の5つのポイントを確認</p>

		認できるようにする。(自分らしさ、着心地、機能性、手入れ、環境)
追究する 40分	<p>④ 5つの押しポイントを意識して、ファッションショーを開く準備をしよう。</p> <p>3 ファッションショーの概要について知り、目的に合った衣服について話し合う。</p> <p>① グループに分かれ、衣服を着るシチュエーション、目的を明確にする。</p> <p>② 持ってきた衣服を見せ合い、目的に応じた衣服のコーディネート話し合う。</p>  <p>素材は何かな。取り扱い絵表示はどうなっているかな。</p> <p>③ その衣服を選んだ押しポイントを記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分らしさ ・着心地 ・機能性 ・手入れ ・環境  <p>4 他の班の衣服を班の数名が見学に行き、情報交換する。</p>  <p>ぼくの班は、着心地を意識して、コーディネートを進めました。</p>	<p>○衣服を着る状況を話し合わせ、その状況に適した衣服を考えさせる。その際、今まで学習したことを踏まえて考えるように伝える。</p>  <p>10月後半の京都の気温やたくさんの場所を見学することを考えると脱ぎ着しやすい服がいいね!!</p> <p>○ワークシートにまとめるときには、5つの押しポイントをどれくらい達成しているかをレーダーチャートにまとめさせ可視化させる。</p> <p>この服は長く着ているから「環境」は4くらいかな。</p> <p>○他の班と情報交換し、もう一度自分の班の衣服を見直させる。</p>  <p>他の班は、おさがりを持ってきていて、環境に配慮していたよ。</p>
まとめる 2分	<p>5 本時のまとめと振り返りをする。</p>  <p>同じ場面設定でも、1つも同じレーダーチャートはないね!</p> <p>6 次時のファッションショーについて説明する。</p>	<p>○いくつかの班に、一番の押しポイントとその理由を発表させる。</p> <p>○レーダーチャートを見て、5つの押しポイントを意識して衣服を考えることができたかを振り返りに書かせる。</p> <p>○次時のファッションショーで注目するポイントをレーダーチャートで確認させる。</p>

6 研究の成果と今後の課題

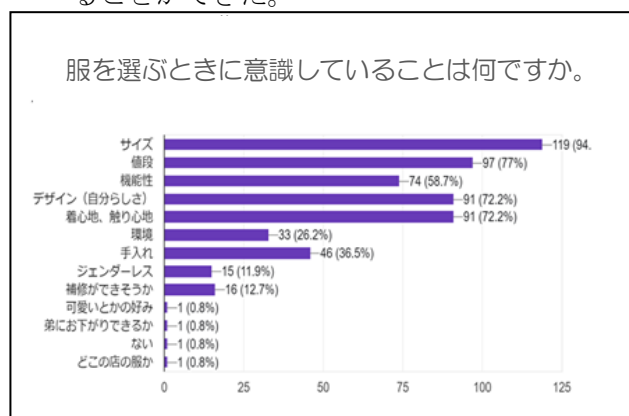
- (1) 手だて①では、家庭での衣服の取り扱いについて家族に聞いてきたり、その結果をクラスで共有し、テキストマイニングで表したりすることで、自分の衣生活を見つめ直したり、さまざまな考え方に触れたりし、衣生活に対する意識の可視化につながった。また、題材の初めと終

わりに「自分らしさ」、「着心地」、「機能性」、「手入れ」、「環境」の5つの視点で今の自分の衣生活に対する意識をレーダーチャートにまとめさせた。それにより、自分の衣生活に対する課題点が明確になり、その後の課題解決学習につながっていったと考えられる。しかし、児童に示した5つの視点が自分の衣生活とどう結びついているのか、実感を伴っていない児童も多かったように感じる。実生活でも意識しやすく、児童にもわかりやすい視点の提示が今後の課題であると感じた。

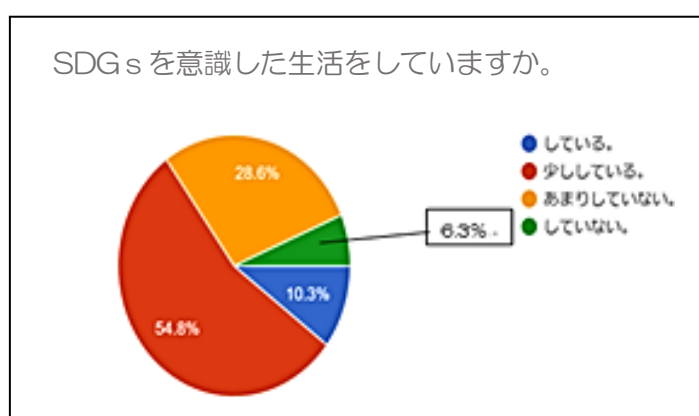
(2) 手だて②では、衣生活で意識すべきポイントを「アイテム」や「押しポイント」で表したことによって、「今日のアイテムは何ですか」「普段からも環境を意識したファッションをしたい」という児童からの発言やプリントでの振り返りが見られ、児童が衣生活の工夫を考える上で有効な手段であったと考えられる。事後アンケートの「衣服を買うときに気を付けていることは何ですか」という質問に対して、「自分らしさ」「環境」という意見が多く聞かれ、今回学習した「アイテム」を意識していることがわかった【資料3】。

(3) 手だて③では、「SDGsを意識した生活をしていますか」という質問に対して、65.1%の児童が前向きな回答をしており、事前のアンケートに比べて、10.6%上昇した【資料4】。それぞれの学習内容に応じて、SDGsと関連する内容を紹介したことで、児童が普段から環境について考え、SDGsを意識した生活を送ることにつながったのではないかと考えられる。しかし、布の性質の学習をした際、洗濯をするときに合成繊維から出るマイクロプラスチックが環境へ負荷を与えていることについて伝えると、綿など天然繊維は善、ポリエステルなど合成繊維は悪という偏った考え方をする児童も見られた。衣生活を送る中で、用途に応じて臨機応変に素材を選ぶなど、幅広い視点をもった児童を育成していくことが大切であると感じた。

また、ファッションショーの準備では、既習内容を生かして児童が積極的に話し合いを進め、熱心にコーディネートをする姿が見られた。タグに書いてある取り扱い絵表示を見たり、兄弟からのおさがりの服を持ってきて紹介したり、気温に合わせて着脱しやすい羽織りを持ってきたりするなど、それぞれの班の重視するポイントに合ったコーディネートの工夫が見られた。同じ状況設定でも、コーディネートが同じになることはなく、5つの押しポイントをレーダーチャートに表したことで、何を意識してコーディネートしたのかが一目で分かり、他の班との違いを見つける上でも有効であった。また、最後に全ての班のレーダーチャートを比べ対話させることで、衣生活において自分が何を意識するのが重要であるということ全体で共有することができた。



【資料3】



【資料4】

7 おわりに

本題材を通して、児童が生活を送る中で、何を意識して衣服を選んでいくか、どのように衣服を手放すのか、衣服を作る過程で環境へどのような影響が出ているかなど、衣生活に関する新たな視点に出会う第一歩になったのではないかと感じる。今回学んだことだけに留まるのではなく、児童一人一人が今後も幅広い視点をもって、自分の衣生活をよりよいものにしていけるように、中学校での衣生活の学習とのつながりも見据えて、長期的に学びを進めていく必要があると感じた。